

EMERGENCY WATCH!!

疾患頻度

1. 感染性胃腸炎	377人
2. 急性上気道炎・感冒	350人
3. 咽頭炎・扁桃炎	202人
4. 気管支喘息・喘息性気管支炎	116人
5. じんま疹	80人

No.79
Jul.2017

神戸こども初期急病センター

2017年6月受診者数 1802人

梅雨に入りましたが、前半は梅雨らしくない天気が続いていましたが、ここに来て梅雨らしい天気が続いていますね。この梅雨を越えれば、もう夏がやってきます。梅雨明けに先駆けて夏風邪の手足口病が増加してきています。2か月前に取り上げていますのでよかったです。今回は夏風邪とともに夏休みに増加してくると予想される熱中症をとりあげたいと思います。

●熱中症

「暑熱環境下における体の適応障害によっておこる状態の総称」とされます。大人に比べて乳幼児は体表面積が大きく、外気温に影響されやすいという側面もあります。熱射病については未だに死亡する症例があるため注意が必要です。

<熱中症の分類、症状、治療のまとめ>

		症状	治療	体温
I度	熱けいれん 日射病	めまい、大量の発汗、あくび、筋肉痛、こむら返り	安静 経口的に水分とNaを補給	正常～38℃以下
II度	熱疲労	頭痛、嘔吐、倦怠感、虚脱感 集中力や判断力の低下	入院治療が必要となることが多い。 体温管理、安静 水分とNaの補給	正常～40℃以下
III度	熱射病	① 中枢神経症状 意識障害、けいれん ① 肝臓、腎臓に障害が出る ② 血液、凝固に異常が出る	集中治療が必要	40℃以上

☆熱中症の中で最も多いのは、熱けいれんです。

☆38℃以上の高熱がみられてくるのはII度以上のことが多い。

<熱中症の予防>

- ・真夏だけでなく、梅雨明けのむし暑くなる日にも多く、注意が必要です。
- ・窓を閉め切った車の温度は15分間で60℃以上になります。⇒短時間でも油断しないでください。
- ・運動前、運動中、運動後には水分とNaの補給をしてください。

☆スポーツドリンクや1Lの水に1-2gの食塩を入れたもの

- ・のどが渇く前に定期的な水分補給をこころがけてください。

<最後に>

夏場に流行する夏風邪でも体温は急激に高くなることがあります。熱中症か風邪による発熱かは判断が難しい状況もあります。急な発熱の際には熱以外の症状にも注意してみてください。高熱でぐったりしている時や、高熱に加えて頭痛、嘔吐などの症状がある場合などは小児科や急病センターに相談してみてください。高熱があり、受け答えがおかしい、意識がもうろうとしているなどの時は救急車を要請するようにしてください。